



一般
社団
法人

大学コンソーシアムひょうご神戸通信

Vol.2

発行:平成28年10月15日

学校・学部紹介

芦屋大学 臨床教育学部 教育学科 ダンスコース

平成28年度「ひょうご留学生インターンシップ」

56名の留学生が26社で実習

【大学別参加人数】

| 所属大学 | 人数 |
|----------|----|
| 芦屋大学 | 2 |
| 関西国際大学 | 2 |
| 関西学院大学 | 15 |
| 神戸大学 | 10 |
| 神戸学院大学 | 3 |
| 神戸国際大学 | 4 |
| 神戸親和女子大学 | 3 |
| 神戸山手大学 | 2 |
| 姫路獨協大学 | 2 |
| 兵庫教育大学 | 2 |
| 兵庫県立大学 | 7 |
| 流通科学大学 | 4 |
| 【合計】 | 56 |

平成28年度（第8回）の留学生インターンシップが炎天下の中、8月上旬から9月中旬まで行われました。26社（27件）の企業・団体に12大学より56名の留学生が参加しました。「テーマ型」（2社5名）、「テーマ・就労体験型」（3社7名）、「就労体験型」（22社44名）の三つの型に分かれて実習を行いました。

56名のインターンシップ生数は過去8回の中で最高の参加人数となっています。これは留学生が日本の会社をより詳しく知りたいため、日本に就職したいという思いが強いからです。インターンシップを通じて、企業・団体、大学関係者を招き、発表を兼ねた報告会を行いました。10月15日（土）には、自らのインターンシップを振り返り、発表を行いました。

テーマ型 2社5名、テーマ・就労体験型 3社7名、就労体験型 22社44名でインターンシップを実施

ダンスコースはストリートダンス（ヒップホップダンス等を含む）、バレエ等のバラエティー豊かなダンスのスキル、ノウハウを国内外で活躍するプロフェッショナルから直接学びながら教員免許も取得出来る関西の大学でもユニークな学科です。今年の4月に開設されたばかりのコースですが、既に「明石ブレイカーズ」に所属している1年生の「井口もか」さんは今年の7月、アメリカのロサンゼルスで開催された“WORLD OF DANCE FINALS 2016”にチームの主力メンバーとして参加し、世界4位の成績を収めました。ダンスコースの学生はダンスの世界で舞台スタッフ、インストラクター、バックダンサー、ミュージカル劇団などのプロフェッショナルを目指すだけでなく、教員免許を活かすことで自らがダンスを楽しみながら、若手の教育、指導も行うことが出来ます。ダンスコースに入学した学生は原則ストリートダンスクラブに入部することが義務付けられており、授業だけでなく実践を通じてダンスの技量と経験を高めることが出来ます。



兵庫県教育史エピソード【第2回】

兵庫県教育の
実利主義

兵庫県庁の所在地神戸は、維新以後急速に発展した土地がらだけに、格式や伝統にとらわれ、教育の面においては、名よりは実を尊ぶ傾向が強く、たとえ神戸商業講習所においても「一日学べば一日ケベバ」の如き教育を施すことを主眼としていた。また校長を配人、生徒を稽古人、事務室を帳場、分校を支店と呼んでいるが、とき、その徹底した実学主義がうかがえる。

明治二〇年代にいたって、高等小学校が各地に設立されはじめたころ、県当局はまず義務教育である尋常小学校の充実を力をもとめ、高等小学校の増設をおこなった。それは「徒ラニ高等教育ノ施設ヲ望ミ、之ガ設備ヲナストキハ、其弊害ノ及ス所独リ不完全ナル学校ヲ起スニ止ラズシテ、延テ尋常小学校ノ規模ニ影響ヲ来スヤ必セリ。」と考えたからであった。名より実をもとめる主義はここにもみられる。

また明治四〇年代より大正初期にかけて、兵庫県は全国一の二部教授実施県であった。二部教授とは、教育者としての強い反対論があつたことはいまもなない。ところが兵庫県があえてこれを奨励したのには、現実に教育費負担にならぬ町村財政を救い、また二部教授手当を支給することによって、教員の待遇をいくらかでも改善したいという現実論からであつたと思われる。

【二部教授とは】
日露戦争による教育費削減のため、教員の整理をおこなない、一人の教員に二箇学級を受けたせいで二部教授はほとんど県下全域にわたつておこなわれ、各学校の沿革誌には、必ずといってよいほど記録されている。

【記事出所】
著作名…兵庫県教育史
引用頁…859頁
発行年…昭和38年11月1日
発行所…兵庫県教育委員会

実習現場拝見

■テーマ・就労体験型
株式会社TAT

「大学生にネイルを広めるには？」をテーマに実務を行いました。問題点の把握とその対策をパワーポイントにまとめ、企業の方に提案しました。



■就労体験型
株式会社ロック・ワールド

【惣菜の製造・販売会社】
惣菜工場では商品の成型、下処理の工程を、販売現場では接客について企業の方の丁寧な指導のもと5日間の実習を行いました。実習を通じてチームワークの大切さを学びました。



第13回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに参加

併せて、分科会では当コンソーシアムより「ひょうご留学生インターンシップ」と「留学生就職支援」について8年間の経験と今年の実例も含めて事例報告を行いました。留学生に特化したユニークな活動に参加者の注目を集めました。



広島のエリザベト音楽大学、広島国際大学、広島キャンパスで「大学連携によるグローバル人材育成」をメインテーマに第13回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムが開催されました。

このフォーラムに大学コンソーシアムひょうご神戸の阿久根事務局長がシンポジストとして参加しました。「ひょうご留学生インターンシップ」で培った経験を基に意見を述べ、グローバル人材育成の今後の在り方について、他の3名のシンポジストの皆様と議論を交わしました。

9月10日(土)・11日(日) 広島で開催

==連絡先==

一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸
〒651-0072
兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8
兵庫国際交流会館1F

TEL:078-271-0233 FAX:078-271-0244
E-mail:info@consortium-hyogo.jp
ホームページ:http://www.consortium-hyogo.jp
Facebook:https://facebook.com/consy.hyogo.kobe/

☆☆ 編集後記 ☆☆

今年で8回目となる留学生を対象としたインターンシップの実習を26社の企業・団体で受け入れ頂きました。が、留学生にとつてはアルバイトで得られない気づきや貴重な経験ができたようです。留学生の気質も時代と共に変化してきており、近年は真面目で丁寧な留学生が増えてきたように感じます。

我々も時代に沿ったインターンシップの在り方を常に模索していかねばならないと感じました。

発行責任者…阿久根昌夫
編集者…表原光男

兵庫県下優良企業訪問バスツアーを実施

- ・訪問企業
- ・植垣米菓(株)
- ・神戸サンレン
- ・PORT STYLE(株)
- ・(株)奥谷金網製作所
- ・神戸洗管工業(株)
- ・日本ジャバラ工業(株)
- ・(株)高山商店



8月19日(金)と9月16日(金)の2回、兵庫県下の優良企業訪問バスツアーを行いました。訪問先企業は今年3月に行われた兵庫県中小企業家同友会主催の合同企業説明会に参加した企業の中から大学のキャリアセンターのアンケートより7社を訪問しました。

訪問先の企業では経営責任者より会社の方針、今後の思いを聞くだけでなく、若手社員からは会社に入ったきっかけ、会社の雰囲気等について直接聞くことができました。近年、インターネットの普及で各社のホームページから社情を得ることができ、実際に訪問することでホームページでは汲み取ることができない会社の実態を皮膚感覚で知ることができました。

異業種の企業7社を訪問

| 月/日 | イベント名 | 場所 |
|--------------------|--|------------------|
| 7月 1日 (金) | 大学キャリアセンターと兵庫県下の企業との交流会 | 兵庫国際交流会館 |
| 7月 9日 (土) ~10日 (日) | 学生ボランティア養成プログラム2016 Part2 震災復興現場から学ぶ1日 | 丹波市 豪雨災害被災地 |
| 7月16日 (土) | 留学生を対象とした「合同企業面談会」 | 兵庫国際交流会館 |
| 8月19日 (金) | 第1回目 兵庫県下の優良企業訪問 (職員・学生) | 加古川市、神戸市 |
| 9月16日 (金) | 第2回目 兵庫県下の優良企業訪問 (職員・学生) | 加古川市、神戸市 |
| 9月10日 (土) ~11日 (日) | 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム「大学連携によるグローバル人材育成」 | エリザベト音楽大学 広島国際大学 |
| 9月14日 (水) | 県内先端産業科学技術施設及び企業見学会 | 神戸市 |
| 9月24日 (土) | ひょうご留学生インターンシップ事後研修 | 兵庫国際交流会館 |

☆☆☆ ボランティア活動報告 ☆☆☆

学生ボランティア養成プログラム2016 Part2

参加学生の感想として、「実際に被災現場を見学し、現地の方の話を聞くことで災害現場の復興の難しさ、通常の生活を取り戻す厳しさを知ることができた。同時に、復興に向けた現地の方の逞しさも肌で感じることができた。」とのことでした。



6月に関西学院千刈キャンパス(三田市)で開催した学生ボランティア養成プログラムPart1の体験プログラムに続き、今回は実際の災害現場である丹波市を訪問し、Part2の被災地フィールドワークプログラムを実施しました。

7月9日(土)10日(日)の2日間、丹波市市島に学生10名と関係者のスタッフ6名が訪問し、1日目は被災地現場を訪問し、復興の進捗状況の確認と現地の方のお話を課題毎に分かれて聞きました。2日目は学生グループを3班に分け「被災地での振り返り」等の課題で討議を行い、その後の発表会で地元住民(講師)を交えて意見交換会も行いました。

被災地の丹波市で状況の確認と交流を実施

留学生を対象とした「合同企業面談会」を開催

留学生の声として「就職活動のため必要な情報が得られた」「企業理解が深まった」等が寄せられました。一方、企業側の声として「速効性のあるイベントであった」「学生の履歴書も見ることができ、中身のあふれた面談会であった」が寄せられました。



7月16日(土)兵庫国際交流会館の多目的ホールで16社の企業が参加して兵庫県の大学・短期大学に所属する留学生を対象に「合同企業面談会」を開催しました。2017年3月卒業見込みの留学生がこの面談会に該当する留学生でしたが定員80名に対し85名の参加がありました。

今年で4回目の開催でしたが、今年は今までの企業説明会ではなく、より就職に直結した合同企業面談会としました。従い、企業、学生共に真剣で活気のある面談会となりました。

16社の企業 85名の留学生が参加

平成28年度 学生ボランティア 東日本大震災、阪神・淡路大震災復興支援

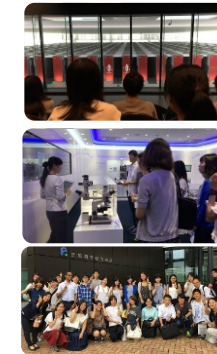


学生交流委員会の学生ボランティア事業のひとつとして、今年も宮城県名取市で8月27日(土)から30日(火)の3泊4日(車中泊)でボランティア活動をしました。今年で7回目の活動となりました。名取市の名取が丘、増田の両児童センターでの活動も今回で3回目となり、多くの子どもたちに学生ボランティア自ら企画・準備した遊びのプログラムを提供し、約250名の子どもたちに喜んでもらうことができました。昨年から継続して参加した学生ボランティアの中には、参加した子供から「今年も来てくれたんだね。ありがとう。」という感謝の言葉をもらい、継続することの重要性を実感することも出来ました。

今回の宮城県名取市での活動では、ボランティア活動のみならず、現地の第一線で活動されている方々の講演会や尚絅学院大学、福岡にある西南学院大学の学生の皆さんと意見交換会も行い、学生交流も実施し、例年以上の充実した活動になりました。

今夏も宮城県名取市でボランティア活動を実施

スーパーコンピューター「京」の見学と 医療機器メーカーシスメックス(株)を訪問



午後からは医療関係の検査・診療機器を製造しているシスメックス株式会社を訪問しました。会社概要の説明を受けた後、研究棟で最新技術を用いた自動血球分析装置、遺伝子検出装置などについて詳しい説明を聞きました。

兵庫県の先端産業科学技術施設や企業を見学することで、県内企業への就職を考えるきっかけとなることを目的に平成28年9月14日(水)バスツアーを行いました。兵庫県の大学に在学する留学生、日本人学生24名が参加しました。

最初に理化学研究所のスーパーコンピューター「京(ケイ)」を見学し担当の方より新薬の開発や気象予報、災害状況をシミュレーションするなどで防災対策の研究に活用されていることの説明を受けました。巨大な部屋いっぱい設置された「京」に参加者全員驚くと共に、先端技術の凄さに感銘を受けました。

兵庫県内先端産業科学技術施設と企業訪問バスツアー

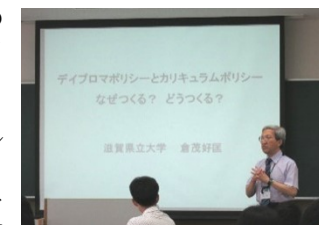
10月・11月・12月のイベント紹介

| 月/日 | イベント名 | 場所 |
|---------------------|---|--------------------------------|
| 10月 7日 (金) | 1回目 県内企業経営者による出前授業 | 関西国際大学 大手前大学 |
| 12月 3日 (土) | 2回目 県内企業経営者による出前授業 | 兵庫国際交流会館 |
| 10月15日 (土) | ひょうご留学生インターンシップ報告会 | 神戸市外国語大学 神戸国際会議場 |
| 11月23日 (水) ~26日 (土) | 第1部: 報告会 第2部: 情報交換会 第3部: 修了パーティー 模擬国連世界大会当日 | こべっこランド (神戸市総合児童センター) 兵庫国際交流会館 |
| 11月27日 (日) | キッズフェスティバル2016 | |
| 12月 3日 (土) | 留学生と企業との交流会 | |

関西学院大学で公開FDセミナーを開催

このワークショップは、「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」との共催事業として、2011年より「講義方法の基礎A」と隔年で実施されており、専任教員、非常勤講師及び大学で講義担当を目指す後期課程の大学院生等、毎年多くの方にご参加いただいています。

今回は、視聴覚教材の使用、方法、アクティブラーニングの進め方、ルーブリック評価に関する講義とグループワークを行い、参加者からは、「ルーブリックの作成・評価基準が、より明確になった」「他の先生方の経験やアドバイスを聞け、貴重な機会となった」など満足度の高い感想をいただきました。



平成28年9月8日(木)から9日(金)の2日間、関西学院大学で、倉茂好匡教授(滋賀県立大学理事兼副学長(教育・学生支援担当))による「大学教員のための『講義方法のブラッシュアップ』」が開催されました。

大学教員のための講義方法のブラッシュアップ」を開催